

生涯学習やまがた



CONTENTS

- ② 特集
社会人の学びを支える大学
- ⑤ たからびと③
工藤陽香さん（東根市）
- ⑥ 地域の取り組みを紹介します
上山市・尾花沢市
- ⑦ 事業報告
歴史文化ゾーンを巡る2017
参加者からのQ&A
- ⑧ information
フォローアップ研修会・遊学館ブックス最新刊発売
洗心庵写真コンテスト作品展示・遊学館リニューアル工事に伴うお知らせ

遊学館 特別会議室 歴史文化ゾーンを巡る⑥

遊学館は県民の生涯学習を支援する総合施設として平成2年にオープンした。古くからの住宅街に位置しているため、建物の高さを低く抑えたボリュームを感じさせない造りにしている。また、周囲に溶け込むよう外壁の色調に工夫をこらし、来館者をあたたかく迎える雰囲気の評価され、平成10年に建設省の公共建築百選に選ばれた。平成30～31年に、図書館を中心とした改修工事が行われる。それに伴い、4カ国語の同時通訳が可能な通訳室を備え、国際会議にも対応した特別会議室も、新たな研修室に変わる。

佐藤…酒田市政策推進課に所属していますが、第3子が産まれて現在育児休業中です。休業前は、市の総合計画づくりに関わっていました。今回の計画は、なるべく多くの市民の皆さんに参画いただきたいながら策定するという方針でしたので、これは絶対に必要な講座だと思い、昨年度受講しました。受講料は、職員育成の一環として酒田市から一部補助してもらいました。家庭と仕事の兼ね合いは確かにありましたが、受講せずに後悔するよりはやってみようと、勢いで受講を決めました。妻には事後報告でした。多様な肩書きの方と一緒に学ぶことができ、とても刺激的で楽しかったです。

学びの広がり

武田…まず大学側として良かったのが、養成プログラムに学部生も参加するのですが、とても刺激を受けていることです。休みの日に普段と異なる大学院キャンパスに通うほど意欲ある学生、その想いを共有できるたくさんの方の多様な社会人とフラットに学び合える。社会人になった時にどういう生き方をするのかということも学べていると思います。それから公開講座としてより多くの地域の方に大学院を活用していただけたことです。通常、履修等には入学金ほかの手続

が必要ですが、これは自治体や協力団体との連携体制があったからこそできました。講座を通してNPOや行政との協働も広がっていますし、プラットフォームで創りあげてきたプログラム自体の認証が広がって、いろいろなところから地域共創コーディネーターへの依頼も来るようになりました。

清野…私は11月に修了したばかりですが、既にコミセン関係者の合同研修会や生涯学習推進員の研修会で、学びを活かす場がありました。皆さんの話を聞いてまとめていくことが自然にできました。それ以外にも、受講前は、打ち合わせの時に自分が進行でなければ好き勝手に話していましたが、進行の邪魔をしないよう意識するようになりました。ファシリテーションは、話しやすさ、しやすい雰囲気をつくることが重要ですが、仕事に関わらず大事なことです。だからもともと早く学びたかったです。



佐藤…私も一緒に受講した方から声をかけていただき、酒田市日向地区でワークショップのお手伝いをしました。酒田市総合計画未来会議でのワークショップや庁内の会議等、さまざまな場面で学びを活かすことができたと思います。職場以外でも、自治会や幼稚園の保護者会等の会議では、進行がスムーズになるよう参加者としての言動を考えるようになりました。家庭内でも共感や対話を大切にして、子どもの本音ややる気を引き出すような心がけるようになりました。今後は、まだ何のビジョンもツテもないのですが「地域共創コーディネーター」の肩書きを使い、もっと実践的に地域に出ていけたらいいと思います。

武田…行政職員にも受講していただいています。庁内外の利害関係を調整する土台となる雰囲気づくりや、若い職員同士のワークショップ等でとても活躍されています。地域に還元する学びということ、課題だった3万円を超え



る受講料も、コミュニティ振興会の予算からねん出したり、行政で補助したり、いろいろな形の受講がありました。自治会や行政でもこういう講座にもっと人を出そうと仕組みを考えてくださる方もいます。社会人ですから全日程の出席が難しいこともありますが、実践活動等で補っていただいたり、学び方や修了要件も工夫しています。

学んだことをどう活かすかという出口は引き続きの課題です。今月も、鶴岡市が総合計画を策定するにあたり市民同士が対話を重ねるワークショップを開催するというので、地域共創コーディネーター15名にテーブルファシリテーターをお願いする予定です。こういった情報を運営委員会に寄せてもらい、一斉に発信して修了生に呼びかけたりしています。皆で対話を大事にしてきた結果、出口についてもいろいろな広がりが出てくるのかなと思います。庄内ならではの人材育成プログラムを皆で創りあげている実感があります。

これからの社会人の学び

武田…社会人の学びのニーズ自体は本当に多様だと思えます。それは多様であつていい。地域からいろいろな声が届きます。社会人で多いのが、退職してから改めて法学とか経済学、哲学、歴史学などをゆつくり勉強したいという声です。おそらく、ずっと会社人間で来たけれど、この社会をどう理解すればいいのか、今の日本を見つめなおした



左から清野氏 佐藤氏 武田氏

いという欲求もあるのではないかと思えます。学ぶことは全ての人に等しく与えられる権利で、とても大事だし、そこからまた自分の人生が変わっていくと思えます。ただ、地域の大学としては、この地域社会も日本もこれからどうなるのか不透明で切羽詰った状況にありますので、地域の課題を解決していくようなリーダーを育てていきたい。自分ごととしていろいろな課題や身の回りの問題を捉えていける、それができる人のことを私たちはリーダーだと思っていて、そんな社会人のニーズに向き合って一緒に取り組んで行くことを大事にしたいと思っています。

佐藤…少なくともこれからの公務員には、今回の地域共創コーディネーター養成プログラムで学ぶようなスキルが必要不可欠だと思います。人口が減り、行政もやれることが少なくなっていく時代に、対話がより重要な意味を持つことになるので。個人的には、社会人の学びには何かしら社会的な要請があつて学ぶような姿勢があつてもいいのかなと思います。自分のためだけにじゃなくて、地域だったり、PTAだったり、多少還元できるような学びができればいいですね。自分自身もいろいろな活動をしていく中でその時々に合わせて学びを実践していきたいですね。

清野…私もこれからは地域で生きていく上で活かされる学びが充実していると思えるような学びが大切だと思います。学ぶ＝学習・勉強と思わずチャンスと捉える。結果を求められたり評価されたりするのは嫌ですね。でも、そこまで気負わずチャンスと思えばいい。私たち社会人は学生さんと同じことを学んでも、初めてのことを学ぶというより、再確認とか再認識とか今までの経験の裏付け部分が多いと思います。そういう意味で今回の学びは、私が生涯学習推進員を続けていくにあたり背中を押してくれるものになりました。それから、大学では自分の生活範囲では出会えなかった人に出会えます。大学で趣味を充実したり友達を増やしたりでもいいと思います。学ぶことって、すごく楽しくて刺激的で勇気を与えてもらえて、広がっているものだと思います。私にとつては、学ぶという意欲を持っていたことも一歩前進でした。

武田…そうですね。お伝えしたいのは学校も学習も変わってきていること。学校のイメージは70代の方と今の子どもたちとは違うと思います。今、答えのないことが本当にたくさんあつて、一方通行の学習には限界があるので、学び合いの方向に変わりつつあります。先生と自分という学び方、自分の中で対話を

重ねるような学び方もありますが、皆で一緒に学び合う意義は佐藤さんが言われた通りですし、清野さんからお話があつたように、生きがいは自分だけで決められるものではなくて双方向ですから、役に立っているといった満足感も必要だと思えます。

これが正解という学習はないので、大学でもこれからのいろいろな学習プログラムを作っていくかと思つていきます。そして学ばれた人たちも、自分たちの地域で、あの手この手で地域の多様なニーズに伝えていく。全く余裕がない人も、何も期待を持ってない人もたくさんいます。地域の課題は一挙に解決できることはないですが諦めない。そのために、裾野を広くして、仲間を増やして巻き込んでいく力のようなものを期待したい。皆でお互いそうなりましょう。皆さま、是非お待ちしています。

— 大学を核に、学びの輪が広がり、地域を変える確かな力が育まれていることがわかりました。社会人の学びの魅力、学びのあり方など様々なアイデアもお聞きできました。本日はありがとうございました。—

3

あなた やまがた たからびと

interview

工藤陽香さん プレイリーダー (東根市)

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は遊びの理想郷“ひがしねあそびあランド”で、子どもたちが自主性、創造性を豊かに育むことができるよう、遊び場づくりをサポートする工藤陽香さんにお話を伺います。

「あそびあランド」とは？ プレイリーダーとは？

あそびあランドは、子どもたちが屋外を中心に四季を感じながら自由に過ごすことのできる場。遊ぶもよし、遊ばなくてもよし、自分があるのままでいられ、やってみたい！と思ったことに挑戦し、安心して失敗できることです。プレイリーダーの役割を一言で表すと、子どもがいきいきと遊ぶことのできる環境をつくることでしょうか。子どもが、いろいろなことに興味を持てるよう遊び場の整備をしたり、常に化する遊び場の状況に応じて注意を払って声をかけたり、時には相談相手になったり、ケガやトラブルにも対応します。子どもの気持ちを大人へ伝える代弁者の役割になることもあります。

もともと幼稚園の先生に憧れて保育士として働いていましたが、地元で働きたいと思い始めた頃に、学生時代にお世話になった地元のNPOで新しい子どもの遊び場を運営することを耳にし、プレイリーダーという職業に出会いました。

「遊びでしか得られない学び

子ども自ら遊ぶことを「遊育」と言っています。子どもは日々の生活の中で、自然に「遊育」をしています。やってみたい！という気持ちは、誰かに命令されてするものではなく、自分の内面から湧き出てきま

す。だから、これをやりたい！と思えば夢中で挑戦し、その経験から集中する姿勢が身につきます。挑戦の結果、失敗することもありますが、それを繰り返すことでポキッと折れてしまわない、しなやかな心が育まれます。体をいっぱい使うことでたくさんケガもしますが、そのおかげでいざという時の身のこなしや命にかかわる大きな危険を回避する力が身に付きます。他にもたくさんありますが、遊びから得られるものは、生きる力そのものだと思います。ですから、子ども時代の遊びはかけがえのない大切なもの。でも大人から見ると「なにもしていない」ようだったり、「ムダ」だったり、「危険」だったりして、子どもを思うがあまり子どもの遊びを規制しがち。実はそれが子どもの大切な成長の瞬間や挑戦の気持ちを奪っていたりするので。



あそびあランドでの工藤さん (下段右)

「これからの目標

日本でも、子どもの遊びの重要性が少しずつ認知されてきていますが、実践できる環境はまだまだ少ないと思います。子ども時代の貴重な時間、おもいきり「遊ぶ」ことが、子どもをどんなに輝かせるのか、子どもの未来にどう繋がっていくのかを、より多くの人が考えて実感できるような場をつくっていきたいと思っています。先日学んだばかりですが、イギリスでは、子どもがまちの中で見える存在であるようにと「プレイストリート」という地域交流の場、遊びの場づくりの取組みがあるそうです。身近な地域の道路を数時間歩行者天国にして、子どもを中心にそこに住む人々が道路で遊んだり自由に過ごしたりするそうです。そんな風に、生活の中に子どもたちの遊ぶ姿が当たり前にある、遊びあふれるまちを実現するのが目標です。

それから、大人にも遊びは必要です。やらなきゃいけないこと、大変なこと、様々ありますが、少し視点を変えるだけで向き合う姿勢が変わります。どんなことでも楽しめるような遊びごころを忘れず、興味があることを思いきり楽しんで、自分で「遊び育つ」ことをいつまでも続けて欲しいと思います。できない理由を考えるより、できる方法を考えた方がモチベーションもあがると思います。

あそびあランドホームページ

<http://www.asobia.jp/>

地域の取り組みを紹介します

上山市 企業とのコラボウォーキング

『クアオルト上山で企業の元気づくり』

■ 内容 ■

上山市は全国に先駆けて、地域資源を活かして、住む人訪れる人、そして地域を元気にする“クアオルト(ドイツ語で健康保養地)上山”のまちづくりを進めています。11月23日には、サントリービバレッジソリューション(株)とのコラボウォーキング企画を実施し、社員と市民が、ウォーキングや食事、同社商品が当たる大抽選会をしながら交流を深めました。健康づくりに大切な運動・休養(温泉でリラックス)・栄養(食)の魅力が凝縮された上山市。企業の健康経営が注目される中、社員の幸せと企業のさらなる発展を、地域を挙げて応援しており、様々な企業とコラボしています。



■ ここが大変 ■

同社にはクアオルト応援自動販売機の導入などで協力を得ており、市民に対して連携事業の内容や同社の魅力を伝える工夫を行ったほか、社員に対しては上山市やクアオルト事業の認知度を上げる仕掛けを行いました。

■ ここがうまくいった ■

社員の皆さんには、クアオルト上山での様々な体験を通して、楽しみながら“健康への気付き”を得てもらおうと心がけており、さらには市民との交流も深めてもらったことで終始笑い声に包まれた一日になりました。

参加者
Voice

日ごろの運動不足を感じましたが、植物や景色を見ながら「歩く」ってとても楽しいと思えました。地元の皆さんとも交流して温かく迎え入れていただき、心も体も元気になりました。

尾花沢市 徳良湖の未来を考えるワークショップ

『みんなで描く徳良湖の未来』

■ 内容 ■

2021年に築堤100周年を迎える花笠踊り発祥地「徳良湖」について、今後10年間の整備計画策定に向けて、昨年度より実施している事業です。

2回目となる今回は、市民から実行メンバーを募集し、ミーティングを4回実施。「対話しやすい場づくり」を目標にワークショップを企画しました。

当日は、市内外から応募者50名が参加。実行メンバー10名をファシリテーター(進行役)に、松林の中でワークショップを行い、参加者の皆さんからは、徳良湖の未来について、たくさんのアイデアが出されました。



■ ここが大変 ■

実行メンバーとのミーティング(全4回)では、都合により参加できないメンバーもいたため、進捗状況や情報を共有し、チームとしての一体感を作ることに苦労しました。

■ ここがうまくいった ■

ワークショップを始める前に、参加者全員で徳良湖1周を歩いたことで、参加者同士でコミュニケーションをとることができ、そのことがワークショップの話しやすい雰囲気につながりました。

参加者
Voice

徳良湖を良くしたいと前向きに考えている大人の方と意見交換したことで、自分にはない考え方を得ることができました。また参加してみたいです。

事業報告

歴史文化ゾーンを巡る2017

歴史文化ゾーンは、4つの文化施設(文翔館・遊学館・洗心庵・教育資料館)が集まり、緑豊かで学習環境に優れ、初代県令三島通庸が山形の新しいまちづくりを目指して整備したエリアである。そこで歴史文化ゾーンの学びの魅力を掘り起こすため、4施設合同企画が11月3日(文化の日)からスタートし、11月26日に終了した。

今年で3年目を迎える合同企画は「古絵図から学ぶ山形城下の発展」をテーマに、講演会・写真展・スタンプラリーを実施。メインとなる講演会は、



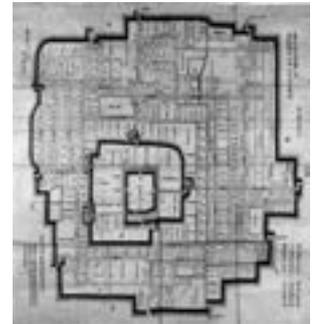
11月11日に「山形城絵図「伊藤本」を読む。-「守春本」と比して-」と題し、県立図書館「本の森講座」

との共催事業として行った。市村幸夫氏(村山民俗学会幹事)より講演をしていただき、約100名が山形城下の発展の歴史を学んだ。

また4施設を巡るスタンプラリーでは県内外の観光客を含め多く

の方に、このエリアの歴史文化に触れていただくとともに、各施設の魅力を知っていただくことができた。

毎年テーマを変え、山形のまちづくりの歴史や土地の歴史を学ぶことで、少しずつではあるが歴史文化ゾーンに対する認知度が上がってきたと思われる。今後も歴史文化ゾーンの名にふさわしい魅力を再構築するとともに、各施設への理解を深めていただけるよう4施設が連携して情報を発信する。



山形城絵図 伊藤本

広報紙「生涯学習やまがた Vol.12」

①「生涯学習やまがた」を読むのは

- 初めて 時々 毎号

②どこで入手されましたか？

- 遊学館内 公民館・コミュニティセンター
 図書館 文化施設 その他()

③興味を持たれた記事は何ですか？(複数回答可)

- 社会人の学び直し たからびと
 地域の取り組み紹介 表紙
 その他()

④内容について

- 良い まあまあ 不満

⑤その他 ご意見・ご感想・取り上げてほしいことなどをお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。2018.2

参加者からのQ&A

もやもや解決!

地域学交流集会(11月実施) アンケートより

青年団組織を発展させ、地域学の場につなげたいと思っています。そのような事例はありましたか？

ズバリ、あります!実際に河北町では青年団と高校生ボランティアによる“紅”という団体が「紅花学んでまちづくり」(「山形学」地域連携講座H14・15)という講座を開催しています。南陽市では梨郷地区青年団を中心に、かつて栽培していた土平かぼちゃを活用した地域づくり活動“かぼちゃプロジェクト”(地域学交流集会H24参加団体)を行っています。その他、新聞記事にも、地域課題の学習会、伝統芸能の復活、祭づくり、郷土学習とその成果発表など、県内青年団による地域を学ぶ多様な活動事例を見ることができます。

そもそも青年団は、若者たちが夢や希望をもち地域でより良い生活をおくるため、団体として学び合い、課題解決に取り組んでいく活動です。スポーツや文化、郷土芸能、祭り・イベント、ボランティア活動、地域や社会に目を向けた活動まで幅広い活動内容ですが、自分たちの住む地域を学ぶことは、より良い地域づくりや地域活性化に欠かせないものとして、これからも青年団活動の一端を担うものではないでしょうか。青年団発の地域学活動、是非取り組んでみてください!

皆さんからの「生涯学習やまがた」への意見やご感想をお聞かせください!

アンケートにご回答いただきお送りください。

(お手数ですが切手をお貼りください)

—洗心庵からのお知らせ—

第5回写真コンテスト 入賞作品展

一般向け

入賞者19名が決定され、下記日程で入賞作品展を開催します。

日時 3月17日(土)～4月4日(水)
時間 9時～17時 ※4月4日は15時まで
場所 洗心庵 多目的ホール

抹茶のもてなし

一般向け

春の庭園を鑑賞しながら、抹茶を楽しんでいただけます。

日時 3月25日(日) 10:00～なくなり次第終了
菓子代 200円 先着35名様
問合せ 山形県緑町庭園文化学習施設 洗心庵
電話 023-664-2800

遊学館ボックス最新刊!

小説にみる山形

平成28年度「山形学」フォーラム・講座(5回)の記録集。

県出身の作家などを講師に迎え、小説に描かれた山形、物語に表出する山形の心奥、山形に生きた作家たちなどの姿から山形の豊かな文学風土を明らかにし、山形の新たな魅力を掘り起こしました。

県生涯学習センター(遊学館3階)・文翔館・洗心庵、県内一部書店、Amazonなどで販売中。

お近くの公立図書館でもご覧いただけます。

定価1,080円 B6版 254頁



編集後記

この広報紙のバックナンバーが生涯学習センターホームページよりご覧いただきやすくなりました。特に、特集企画の寄稿文や鼎談は、いま読み返しても、気づきを得られる内容です。表紙の写真は財団職員が撮影したものです。仕事を機にカメラに興味を持つきっかけとなりました。是非アクセスしてご覧ください。(Y)

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業

フォローアップ研修会 関係者向け

【山形会場】 3月1日(木) 13時から16時45分
遊学館(山形市緑町1-2-36)
【庄内会場】 3月8日(木) 12時30分から16時35分
庄内町余目第二公民館(庄内町払田字サビ40)

内容 講師：服部真治氏((一財)医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構研究部研究員兼研究総務部次長)による講演、居場所づくり実践者による事例報告、ワークショップほか。

対象 高齢者生きがいづくり・生活支援活動実践講座過年度受講生、市町村生活支援コーディネーター、高齢者生きがいづくり・生活支援活動担当者

—遊学館リニューアル工事に伴うお知らせ—

平成30年度から31年度にかけて、図書館を中心とした改修工事が予定されています。現在、下記の研修室等の利用制限がなされる予定です。(今後、変更等はホームページでお知らせいたします。)

第2研修室(3F) — 平成30年7月～当分の間
特別会議室(3F) —
第4研修室(2F) — 平成30年8月～当分の間
第5研修室(2F) —
学習室(2F) —

郵便はがき



990-0041

山形市緑町1丁目2番36号
山形県生涯学習センター 行

差し支えなければお書きください。

ご住所 〒

お名前

ご年代 代

ご職業

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成30年2月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36[遊学館]
TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp
URL <http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]
■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00[夜間利用が無い場合は19:00まで]
■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始